

新型コロナまん延長期化——

石消費 油量 回復の妨げにならず

2021年、需要550万バレル/日増加見通し

【ニューヨーク＝P・W誌特約】世界各国でCOVID19（コビッド19）新型コロナウイルス感染症のパンデミック（世界的大流行）が長期化する可能性があるが、それが2021年の石油消費量の回復を妨げる可能性は低いと、EIG（エナジー・インテリジェンス・グループ）は考えている。インドで発生している大規模感染のようなウイルスまん延の急拡大で、需要成長の回復が減速する可能性があるが、欧州でみられる封じ込め対策が、新規感染を素早く減らすことが可能であることを示している。

一様ではないワクチン接種率を実現させる。ワクチン接種率、そしてウイルスの変異が集団免疫への道を複雑にしている。ワクチンの供給は同様ではないが、2021年の需要はいせんとして、前年比550万バレル/日の平均9770万バレル/日と見通されている。

これは5～7月のインドの需要の平均が下方修正されたことも含んでいる。

結局のところ、インドのウイルス感染の急拡大で、世界の需要成長は2021年、少なくとも10万バレル/日と見込まれる。

世界の消費量の3分の1を占める米国や中国といった需要の中心国は、社会・経済活動の大部分を再開するのに十分なスピードでワクチン接種を展開し、欧州が夏季、その後続くことみられている。しかし迅速なワクチン展開が、ウイルスの感染拡大を止める高い

ワクチン接種率を実現させる。ワクチン接種率、そしてウイルスの変異が集団免疫への道を複雑にしている。ワクチンの供給は同様ではないが、2021年の需要はいせんとして、前年比550万バレル/日の平均9770万バレル/日と見通されている。

ワクチン接種率を実現させる。ワクチン接種率、そしてウイルスの変異が集団免疫への道を複雑にしている。ワクチンの供給は同様ではないが、2021年の需要はいせんとして、前年比550万バレル/日の平均9770万バレル/日と見通されている。

ワクチン接種率を実現させる。ワクチン接種率、そしてウイルスの変異が集団免疫への道を複雑にしている。ワクチンの供給は同様ではないが、2021年の需要はいせんとして、前年比550万バレル/日の平均9770万バレル/日と見通されている。

ワクチン接種率を実現させる。ワクチン接種率、そしてウイルスの変異が集団免疫への道を複雑にしている。ワクチンの供給は同様ではないが、2021年の需要はいせんとして、前年比550万バレル/日の平均9770万バレル/日と見通されている。

ワクチン接種率を実現させる。ワクチン接種率、そしてウイルスの変異が集団免疫への道を複雑にしている。ワクチンの供給は同様ではないが、2021年の需要はいせんとして、前年比550万バレル/日の平均9770万バレル/日と見通されている。

ワクチン接種率を実現させる。ワクチン接種率、そしてウイルスの変異が集団免疫への道を複雑にしている。ワクチンの供給は同様ではないが、2021年の需要はいせんとして、前年比550万バレル/日の平均9770万バレル/日と見通されている。

ワクチン接種率を実現させる。ワクチン接種率、そしてウイルスの変異が集団免疫への道を複雑にしている。ワクチンの供給は同様ではないが、2021年の需要はいせんとして、前年比550万バレル/日の平均9770万バレル/日と見通されている。

ワクチン接種率を実現させる。ワクチン接種率、そしてウイルスの変異が集団免疫への道を複雑にしている。ワクチンの供給は同様ではないが、2021年の需要はいせんとして、前年比550万バレル/日の平均9770万バレル/日と見通されている。

ワクチン接種率を実現させる。ワクチン接種率、そしてウイルスの変異が集団免疫への道を複雑にしている。ワクチンの供給は同様ではないが、2021年の需要はいせんとして、前年比550万バレル/日の平均9770万バレル/日と見通されている。

ワクチン接種率を実現させる。ワクチン接種率、そしてウイルスの変異が集団免疫への道を複雑にしている。ワクチンの供給は同様ではないが、2021年の需要はいせんとして、前年比550万バレル/日の平均9770万バレル/日と見通されている。

ワクチン接種率を実現させる。ワクチン接種率、そしてウイルスの変異が集団免疫への道を複雑にしている。ワクチンの供給は同様ではないが、2021年の需要はいせんとして、前年比550万バレル/日の平均9770万バレル/日と見通されている。

ワクチン接種率を実現させる。ワクチン接種率、そしてウイルスの変異が集団免疫への道を複雑にしている。ワクチンの供給は同様ではないが、2021年の需要はいせんとして、前年比550万バレル/日の平均9770万バレル/日と見通されている。

ワクチン接種率を実現させる。ワクチン接種率、そしてウイルスの変異が集団免疫への道を複雑にしている。ワクチンの供給は同様ではないが、2021年の需要はいせんとして、前年比550万バレル/日の平均9770万バレル/日と見通されている。

ワクチン接種率を実現させる。ワクチン接種率、そしてウイルスの変異が集団免疫への道を複雑にしている。ワクチンの供給は同様ではないが、2021年の需要はいせんとして、前年比550万バレル/日の平均9770万バレル/日と見通されている。

ワクチン接種率を実現させる。ワクチン接種率、そしてウイルスの変異が集団免疫への道を複雑にしている。ワクチンの供給は同様ではないが、2021年の需要はいせんとして、前年比550万バレル/日の平均9770万バレル/日と見通されている。

ワクチン接種率を実現させる。ワクチン接種率、そしてウイルスの変異が集団免疫への道を複雑にしている。ワクチンの供給は同様ではないが、2021年の需要はいせんとして、前年比550万バレル/日の平均9770万バレル/日と見通されている。



ベンゼン 大幅上昇

5月アジア向け

合成樹脂などの原料となる基礎化学品ベンゼンのアジア向け契約価格が一転、大幅に上昇した。指標となるENEOSの5月契約は1ト995^ポと、4月比160^ポ(19.2%)高い。2017年2月の1ト1010^ポに迫る4年3カ月ぶりの高値となった。ベンゼンの生産が少なく需給の逼迫した欧米での価格急騰が波及した。

4年3カ月ぶり高値

欧米や中国などを中心に経済の回復に伴って石油化学製品の需要が底堅く推移している。一方、原油価格の水準が切り上がる中で欧州のプラントの定期修理で供給が減って値上がりし、米国产も上昇。アジア向け価格も運動した。

日本国内のベンゼンの想定価格は前月比15.7円(16.1%)高い1^ト113.5^ポで、上昇は7カ月連続となった。為替が円安・ドル高となったことも上昇の一因だ。

フェノール価格
7カ月連続上昇
5月国内大口7.2%高
合成樹脂などの原料と

なる基礎化学品フェノール
の国内大口価格が7カ月連続で上昇した。三井化学などが決める5月分は1.308円で、4月上がりとなった。

と比べて20.7円(7.2%)高い。値決めの指標となるベンゼンの価格急騰を反映し、大幅な値上がりとなった。

住友ベ、今期純利益10%増 半導体用封止材が好調

住友ベークライトは17日、2022年3月期の連結純利益（国際会計基準）が前期比10%増の145億円になる見通しだと発表した。巣ごもり需要によるデータセンター向け投資の拡大を背景に、半導体用封止材の好調が続く。自動車生産の回復を受け、機構部品に使われる高機能プラスチックの販売も伸びる。年間配当は15円増の90円とする方針だ。

売上高にあたる売上収益は10%増の2300億円を見込む。半導体製造時にチップを保護する封止材向けのエポキシ樹脂が伸びる。自動車生産の復調で、軽く耐熱性に優れるフェノール樹脂など高機能プラスチックも堅調。藤原一彦社長は自動車向け部品材料について「欧州からは地産地消という要求が強くなる」と述べ、ベルギーの子会社で新ラインを22年3月ごろに完成させるとした。

20年10月に子会社化した川澄化学工業との医療機器事業統合も寄与する。同社が持つ、血管を拡張したまま固定するステント（筒状の金属製の網）など低侵襲医療向け器具の伸びを見込む。同日発表した21年3月期の連結決算は、売上収益が前の期比1%増の2090億円、純利益が47%増の131億円だった。

日、2022年3月期の連結純利益（国際会計基準）が前期比10%増の145億円になる見通しだと発表した。巣ごもり需要によるデータセンター向け投資の拡大を背景に、半導体用封止材の好調が続く。自動車生産の回復を受け、機構部品に使われる高機能プラスチックの販売も伸びる。年間配当は15円増の90円とする方針だ。

売上高にあたる売上収益は10%増の2300億円を見込む。半導体製造時にチップを保護する封止材向けのエポキシ樹脂が伸びる。自動車生産の復調で、軽く耐熱性に優れるフェノール樹脂など高機能プラスチックも堅調。藤原一彦社長は自動車向け部品材料について「欧州からは地産地消という要求が強くなる」と述べ、ベルギーの子会社で新ラインを22年3月ごろに完成させるとした。

20年10月に子会社化した川澄化学工業との医療機器事業統合も寄与する。同社が持つ、血管を拡張したまま固定するステント（筒状の金属製の網）など低侵襲医療向け器具の伸びを見込む。同日発表した21年3月期の連結決算は、売上収益が前の期比1%増の2090億円、純利益が47%増の131億円だった。

日経新聞

ロイター通信

化学工業日報

燃料油脂新聞

環境ビジネス

日へHD 中国で汎用塗料好調

1～3月期決算

日本ペイントホールディングス(HD)の2021年1～3月期決算(IFRS適用)は増収増益だった。アジア合弁事業の100%子会社のほか、主力事業である中国の汎用塗料が好調に推移したことなどで売上収益は前年同期比42・1%増の2314億円、営業利益も72・4%増の262億円だった。

各部門の売上収益は、日本では自動車用塗料が半導体不足などの影響で自動車生産台数が伸び悩むも前年同期並みとなった。工業用塗料もコロナ禍の影響からの回復を見込むものの、市況低迷などにより前年同期並み。

汎用塗料はコロナ再拡大にともなう塗装工事の遅延や新規発注の低迷で前年同期を下回った。アジアでは中国・タイで自動車用塗料が前年同期を上回った。汎用塗料

は中国での新築住宅などの建設、既存住宅向け内装需要の回復が継続したことなどで前年同期を上回った。通期業績予想の変更はなし。

包装インキ牽引

サカティンクス

サカティンクスの2021年1～3月期決算は、営業利益が前年同期比45・3%増の27億円だった。パッケージ用インキの増販効果とコスト削減が寄与して大幅増益を達成。とくに欧州では昨年買収した独インキメーカーが新規連結に加わっ

て黒字転換を果たした。売上高は4・7%増の432億円、経常利益は1・5倍の28億円、純利益は1・8倍の18億円。印刷インキ事業では内食や通販需要の拡大を受け、クラフト・フレキシブルが全地域の業績を牽引した。日本のみ減収となったものの、同セクメントではコスト削減により営業利益が4億円近傍に回復。米州では環境負荷低減のためにアルミ缶需要が増加し、メタルインキも堅調だった。コスト削減効果と併せて営業利益が約10億円と全体を

牽引するかたちとなった。一方、オフセットインキはデジタル化や広告需要の縮小が大きく、中国市場を除き低迷した。機能性材料事業では主力製品の多くが前年実績を上回った。カーボンファイバー用分散液がパネルディスプレイ市場の好況を追い風としたほか、トナーなどのオフィス向け製品やインクジェットインキも回復傾向にある。これに経費削減効果などが加わって営業利益が大きく改善した。

第2四半期・通期予想とも据え置いた。



ウメモト インフォメーション



2021年5月19日

担当 坂日

6月出荷分から インキ・接着剤

東洋インキ

東洋インキは、6月1日出荷分からメラミン・フレイクインキをラミネート接着剤を値上げする。1kg当たりの上げ幅は、油性インキが60円、

水性インキが50円、硬化剤が50～130円、ラミネート接着剤は主剤が50円、顔料・樹脂・溶剤など原料価格に加え、輸送費・ユーティリティ・コストなども上昇。自助努力のみでの吸収は困難と判断した。

価格修正

マイケルズ

(6月10～14日)

左記に表記のないものは1kg当たり

【樹脂塗料】・二葉ゼマカ

ルが5月9日からメタクリルを20円以上値上げ

【EPOXY】・エポキシが5

月5日からエチレンオキ

サイド(DC)を10円以上

EO誘導品のエチレンテ

リコールとエタノールア

ミンを20円以上値上げ

【インキなど】・人口局化上

次が5月1日からロイヤ

キ・メキシコ、接着剤を50

円、色物インキを50～80

円、硬化剤を50～100円

値上げ

・サカダイシスが6月1

日からロイヤキ、メキシ

ム・ニス、接着剤を50円、

色インキを高純度・高純度IO

OD、硬化剤を100円

値上げ

【硬化剤など】・硬化剤工業

が6月1日から10円以上

【フィルム・ラミネート】

21日から軸延伸ホリフ

【接着剤】・マイケルズが5月21

日からメタクリルを20円以上値上げ

【塗料】・マイケルズが5月21

日からメタクリルを20円以上値上げ

【樹脂塗料】・トイコー

が6月1日からアンキ

を50～150円、フレイク

インキを80～150円

・中高純度接着剤を50

円以上、加工原料は個別に

値上げ

【EPOXY】・ロイヤル・A

GCが5月9日からエ

チレンオキサイドとテ

トリコロイドを35円以上値

上げ

【接着剤】・デンカホ

リマーが6月1日からデ

ンカトップ新製品のハンド

用、オト用を15%以上

値上げ

【フィルム・ラミネート】

21日から軸延伸ホリフ

日経新聞

ロイター通信

化学工業日報

燃料油脂新聞

環境ビジネス